

# 台湾における航空貨物

—何を輸送しているのか—

池上寛

## ●はじめに

台湾では航空貨物で輸送された輸出および輸入貨物は重量ベースによるHS2桁コードのデータが公開されている。また、各コードの上位五カ国・地域の取扱量も明らかにされている。本稿では、このデータを使用して、最初に台湾の航空貨物の概況や台湾の航空貨物の主要相手先をみる。そのうえで、どのような品物が航空貨物で輸送されているのか、そして主要品目の上位国・地域を検討することで台湾の航空貨物の特徴を明らかにしたい。

## ●台湾の航空貨物の概況

まず、台湾における航空貨物の概況を検討する。図1は二〇〇五年から二〇一四年までの台湾における航空貨物取扱量を輸出と輸入に区別して表したものである。こ

の図からまず明らかなのは、この一〇年間で、輸出入取扱量が輸入取扱量を上回っていることである。また、全体的な流れでいうと、輸出、輸入とも二〇〇五年が取扱量のピークであり、その後二〇〇七年にかけて緩やかに減少した後、二〇〇八年には前年比で輸出は一〇・五万トン、輸入は七・七万トンそれぞれ減少した。これは世界金融危機による影響を受けたためである。

その後、二〇一〇年にかけて輸出、輸入とも取扱量は増加したが、再度減少に転じている。ただし、輸出は二〇一三年から、輸入は二〇一四年に増加に転じている。二〇一四年の取扱量は輸出で四六・五万トン、輸入で三五・六万トンとなっている。

台湾での航空貨物は重量ベースで九五％は台湾桃園国際空港を扱

点にして輸送されている。その意味で、この数値のほとんどは台湾桃園国際空港で取り扱われた輸出、あるいは輸入貨物であるとみてよいであろう。

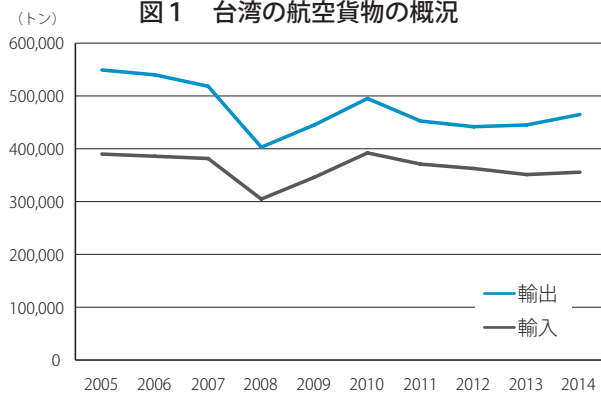
## ●航空貨物の主要相手先

次に、航空貨物で輸送される相手先について考える。表1は二〇一四年における輸出、輸入における相手先上位一〇カ国・地域を示したものである。この表からわかるように、輸出、輸入とも最大の相手先は中国である。また、上位三国は中国のほか、アメリカと日本であることがわかる。これら三国が占める割合は、輸出では四九・二％、輸入では五六・九％を占め、これら三国が航空貨物の中心であるといえよう。

また、地域別で見ると、輸出、輸入ともアジア地域の国・地域が

上位の相手先であることが理解できる。すなわち、日本や中国以外に、香港、韓国、シンガポール、マレーシアは輸出、輸入ともに上位の相手先であることがわかる。また、ベトナムは輸出で、タイは輸入で上位相手国となっている。日本や中国も含めた輸出に占めるアジア諸国・地域の割合をみると、輸出では五三・九％、輸入では五八・九％を占めている。このことからわかるように、台湾の航空貨物輸送はアジア地域を中心として輸送されていることが理解できよう。

図1 台湾の航空貨物の概況



(出所) 交通部統計処編『商品別貨品流量及運費率調査報告』(各年版)より筆者作成。

表1 台湾における航空貨物の上位相手国・地域 (2014年)

(単位: トン、%)

	輸出			輸入		
	国・地域名	重量	割合	国・地域名	重量	割合
1	中国	108,757	23.4	中国	91,725	25.8
2	アメリカ	74,082	15.9	日本	59,873	16.8
3	日本	45,699	9.8	アメリカ	50,948	14.3
4	香港	44,668	9.6	韓国	18,026	5.1
5	ドイツ	18,305	3.9	ドイツ	15,867	4.5
6	韓国	14,852	3.2	香港	12,869	3.6
7	シンガポール	14,753	3.2	タイ	10,606	3.0
8	ベトナム	11,847	2.5	ノルウェー	10,254	2.9
9	イギリス	10,852	2.3	シンガポール	8,613	2.4
10	マレーシア	9,999	2.2	マレーシア	7,721	2.2
上位10位計		353,814	76.1		286,502	80.6
総計		464,856			355,662	

(出所) 交通部統計處『商品別貨品流量及運費率調査報告』2014年より筆者作成。

表2 台湾の航空貨物における主要輸送品 (2014年)

(単位: トン、%)

輸出		輸送量	占有率
商品名			
1	電気機器およびその部品並びに録音機、音声再生機並びにテレビジョンの映像および音声の記録用または再生の機器並びにこれらの部分品および附属品 (85)	175,481	37.7
2	原子炉、ボイラーおよび機械類並びにこれらの部分品 (84)	56,256	12.1
3	光学機器、写真用機器、映画用機器、測定機器、検査機器、精密機器および医療用機器並びにこれらの部分品および附属品 (90)	40,159	8.6
4	プラスチックおよびその製品 (39)	23,056	5.0
5	鉄鋼製品 (73)	13,575	2.9
	上位5品目合計	308,527	66.3
	輸出総重量	464,856	

輸入

輸入		輸送量	占有率
商品名			
1	電気機器およびその部品並びに録音機、音声再生機並びにテレビジョンの映像および音声の記録用または再生の機器並びにこれらの部分品および附属品 (85)	58,873	16.6
2	原子炉、ボイラーおよび機械類並びにこれらの部分品 (84)	53,275	15.0
3	魚並びに甲殻類、軟体動物およびその他の水棲無脊椎動物 (03)	26,024	7.3
4	光学機器、写真用機器、映画用機器、測定機器、検査機器、精密機器および医療用機器並びにこれらの部分品および附属品 (90)	25,217	7.1
5	プラスチックおよびその製品 (39)	16,476	4.6
	上位5品目合計	179,865	50.6
	輸入総重量	355,662	

(注) 商品名の後ろの番号は、HSコード2桁の番号である。(出所) 表1と同じ。

● 主な航空貨物輸送品

続いて、台湾ではどのような品目が航空貨物として輸送されているのかを考える。表2はHSコードで分類された品目のなかで、二〇一四年における上位五品目の取扱量を示したものである。この表をみてわかるように、HSコード二桁ベースでプラスチック類(39)、かつこ内はHSコード、以下同じ)、機械・機器・機械部品類(84)、電気機器類(85)、

光学製品・医療機器類(90)の四品目は輸出、輸入とも上位五品目に入っている。これら四品目以外に、輸出では鉄鋼製品(73)、輸入では水産品(03)がそれぞれ上位に入っているのである。また、上位五品目の航空貨物輸送取扱量は輸出では三〇万トン、輸入では約一八万トンとなっている。また、これら上位五品目が輸出および輸入貨物取扱量全体に占める割合は輸出で六六・三%、輸

入で五〇・六%となっている。このことからわかるように、上位五品目が輸出および輸入の半分以上を占めており、これらが台湾における航空貨物の中心であることがわかる。これら上位五品目のなかで、とくに電気機器類は輸出で一七・五万トンあまり、輸入でも五・八万トンであり、台湾で最も多く輸送されている。輸出では輸出貨物全体の三分の一以上、輸入でも輸入

貨物全体の六分の一以上の割合を占めている。

そして、輸出貨物、輸入貨物それぞれで二番目の取扱量を誇るのが機械・機器・機械部品類である。輸出では五・六万トンあまり、電気機器類の三分の一程度の取扱量である。一方、輸入は五・三万トンであり、輸出による取扱量とほぼ同じ重量の取扱量がある。さらに、光学製品類は輸出では三番目に多い四万トンの取扱量があり、輸入でも二・五万トンの取扱量がある。

これら三品目が台湾航空貨物による主要品であるといえよう。このことを踏まえたうえで、これら三品目の主要相手先をみることにする。

● 主要航空貨物輸送品の相手

表3は電気機器類、機械・機器・機械部品類および光学製品・医療機器類の主要輸送国・地域の二〇一〇年以降の動きをみたものである。

(1) 電気機器類

まず、電気機器類をみると、輸出、輸入とも二〇一〇年がもっとも多くの取扱いがあり、それぞれ約二〇万トン、七万トン弱であつ

表3 台湾における主要航空貨物の輸送相手先とその重量

(単位：トン)

●電気機器類

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	その他	合計
2010年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	シンガポール	その他	合計
	輸入	中国	日本	韓国	アメリカ	マレーシア	その他	合計
2011年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	シンガポール	その他	合計
	輸入	中国	日本	韓国	ドイツ	アメリカ	その他	合計
2012年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	シンガポール	その他	合計
	輸入	中国	日本	韓国	アメリカ	ドイツ	その他	合計
2013年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	シンガポール	その他	合計
	輸入	中国	日本	韓国	アメリカ	ドイツ	その他	合計
2014年	輸出	中国	アメリカ	香港	日本	シンガポール	その他	合計
	輸入	中国	日本	韓国	ドイツ	アメリカ	その他	合計

●機械・機器・機械部品類

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	その他	合計
2010年	輸出	アメリカ	中国	日本	ドイツ	オランダ	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	ドイツ	シンガポール	その他	合計
2011年	輸出	アメリカ	中国	日本	ドイツ	オランダ	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	ドイツ	シンガポール	その他	合計
2012年	輸出	アメリカ	中国	日本	ドイツ	オランダ	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	シンガポール	ドイツ	その他	合計
2013年	輸出	アメリカ	中国	日本	ドイツ	オランダ	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	シンガポール	ドイツ	その他	合計
2014年	輸出	アメリカ	中国	日本	ドイツ	オランダ	その他	合計
	輸入	日本	中国	アメリカ	ドイツ	シンガポール	その他	合計

●光学製品・医療機器類

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	その他	合計
2010年	輸出	中国	香港	日本	アメリカ	韓国	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	ドイツ	韓国	その他	合計
2011年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	韓国	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	ドイツ	韓国	その他	合計
2012年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	韓国	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	ドイツ	韓国	その他	合計
2013年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	韓国	その他	合計
	輸入	日本	アメリカ	中国	韓国	ドイツ	その他	合計
2014年	輸出	中国	香港	アメリカ	日本	韓国	その他	合計
	輸入	日本	中国	アメリカ	ドイツ	韓国	その他	合計

(出所) 表1と同じ。

た。また、輸取出抜量をみると、この五年間の上位五カ国・地域は中国、香港、アメリカ、日本、シンガポールの順番で変化がまったなく、二〇一四年のみアメリカと香港が入れ替わっている。アメリカ以外の国・地域はすべてアジア地域である。

輸取出抜量をみると、上位三カ国は中国、日本、韓国である。これら三カ国からの輸入量は全体の六〇%以上を占めているが、主要輸入先は中国である。中国からの輸取出抜量は日本や韓国よりも圧倒的に多い。

さらに表をみると、二〇一〇年から二〇一四年まで輸取出抜量が輸取出抜量を大きく上回っている。輸取出抜量が輸入取抜量より多い要因には、HSコードではこの品

目には一般的な電気製品はもちろん、半導体やIC(集積回路)といった高付加価値製品も含まれていることがあげられる。台湾には半導体の分野では世界を代表する台湾積体電路製造(Taiwan Semiconductor Manufacturing Co., Ltd.: TSMC)などの企業がある。高付加価値製品が航空貨物で輸送された結果、輸取出抜量

(2)機械・機器・機械部品類

次に、機械・機器・機械部品類をみると、輸取出抜量全体は表からわかるように、五万トン以上の取扱いがあった。一方、輸入取抜量全体では二〇一〇年に六・九万トンであったのが、それ以後は減少傾向ではあるが五万トン台を維



持している。そして、輸取出抜量全体と輸入取扱量全体を比較したとき、二〇一四年をのぞき輸入取扱量が輸取出抜量を上回っている。

輸出貨物における上位五カ国をみると、同じ国が上位を占めている。すなわち、アメリカ、中国、日本、ドイツ、オランダという順位で輸出先上位は変化していない。

輸出先の上位にいるアジア地域の国は中国と日本しかないために、アジア地域の上位国・地域が占める割合は二〇%程度を占めるに過ぎない。また、最大の輸出先であるアメリカへの輸取出抜量は第二位の中国よりも五〇〇〇トン以上多く、台湾製の機械類は多くが欧米地域に輸出されている。

一方、輸入取扱量をみると、日本、アメリカ、中国、ドイツ、シンガポールの五カ国が上位国になっている。そのなかでも、日本、アメリカ、中国からの輸入量が一万トンを超え、輸入先を中心であるといえる。

輸出、輸入の両方の上位五カ国に入っている日本、アメリカ、中国、ドイツの四カ国の差をみてみると、日本、中国、ドイツの三カ国は輸取出抜量より輸入取扱量の方が多い一方、アメリカは二〇一

〇年を除いて輸取出抜量が輸入取扱量を上回っている。このことから、台湾にとって航空貨物輸送における機械類は日本、中国およびドイツは主要な輸入先である一方、アメリカは主要な輸出先であることがわかる。

### (3) 光学製品・医療機器類

最後に、光学・医療機器類の貨物取扱量を取り上げると、輸出では二〇一〇年から二〇一三年は三万トン台であったのが、二〇一四年に四万トンになった。一方、輸入取扱量はこの期間二万トン台の取扱いがあつた。

輸取出抜量の上位五カ国・地域は、二〇一〇年に三位と四位が入れ替わっているのを除けば、中国、香港、アメリカ、日本、韓国という順序である。ただし、中国と他国・地域への輸出货量を比べると、輸出は中国にかなり偏っていることがわかる。

一方、輸入取扱量の上位五カ国は日本、中国、アメリカ、ドイツ、韓国である。ドイツと韓国の順位は二〇一三年のみ入れ替わっているが、日本、アメリカ、中国の順位は変わらない。また、日本からの輸入取扱量は第二位のアメリカの倍以上を占めている年が多く、

日本がこの品目における重要な相手先であることがわかる。この品目にはレンズなどだけではなく、医療機器といった高度な技術をもつ商品類が含まれる。そのことを考えると、中国への輸出は中国にある現地工場向けへの貨物である一方、日本からの輸入は台湾で生産されているよりもより高度な技術をもつものが輸入貨物として輸送されていることが考えられる。

このことは、輸出および輸入の両方における上位国である中国、日本、アメリカおよび韓国の輸取出抜量と輸入取扱量を比較すると、より明らかになる。中国は輸取出扱量が輸入取扱量を大きく上回っている一方、日本とアメリカは輸入取扱量が輸取出抜量を上回っている(二〇一四年のアメリカを除く)。すなわち、日本とアメリカからはより付加価値があるものを入力していると推察される。韓国については、その関係性はほかの国のようにみられない。ただし、韓国の取扱量は日本、アメリカ、中国よりもその量は非常に少ない。

その意味では、中国、日本、アメリカとの輸送関係が大きいといえる。

### ●おわりに

以上のように、台湾の航空貨物を重量ベースでみた場合、輸出貨物や輸入貨物は日本や中国を中心としたアジア地域を中心に展開されていることがわかる。また、品目別輸送をみると、電気機器類、機械・機器・機械部品類、および光学・医療品類が航空貨物輸送の中心であり、しかもこれら品目の上位国・地域の多くは中国や日本といったアジア地域の国々である。以上から明らかのように、台湾の航空貨物は日本や中国などの一部の国・地域による特定の品目の輸送を中心に行われていることが理解できよう。

(いけがみ ひろし/アジア経済研究所 在台北海外調査員)

### 《参考文献》

- ①交通部統計處『商品別貨品流量及運費率調査報告』台北：交通部統計處、各年版 (<http://www.motc.gov.tw/ch/home.jsp?id=56&parentpath=06>)。